

基本的な知識

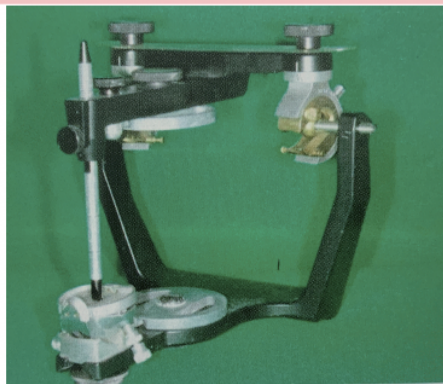
顆頭球が下顎部
顆路部が上顎部

アルコン型

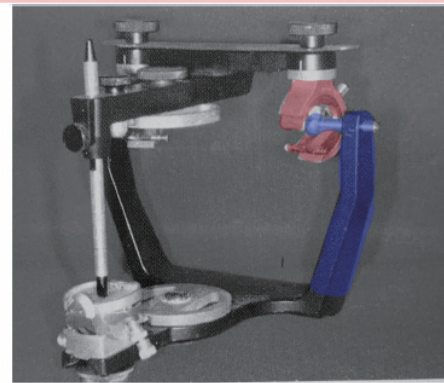
顆頭球が上顎部
顆路部が下顎部

コンダイラー型

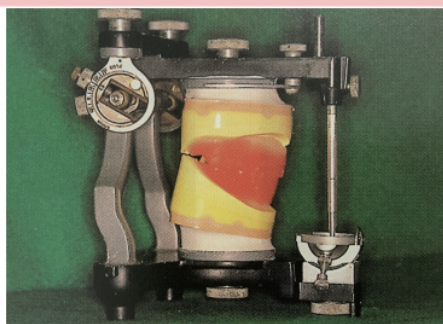
アルコンとコンダイラーの見分け方



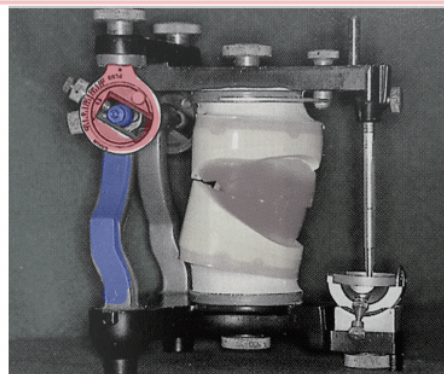
ケース1



顆頭球が下(青)=アルコン型

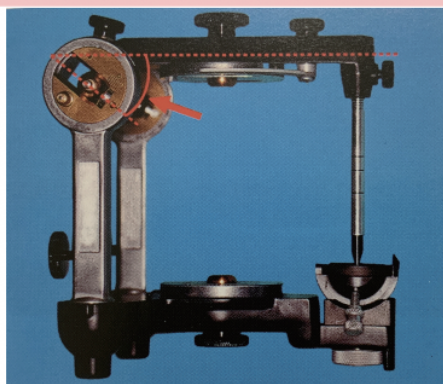


ケース2

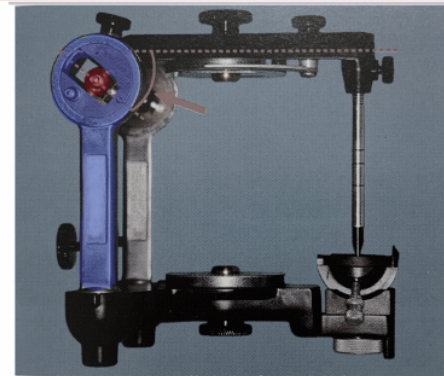


顆頭球が下部(青)=アルコン型

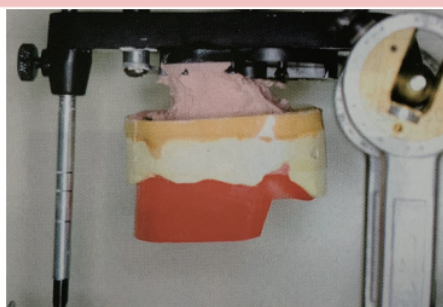
実際に国試に出た咬合器



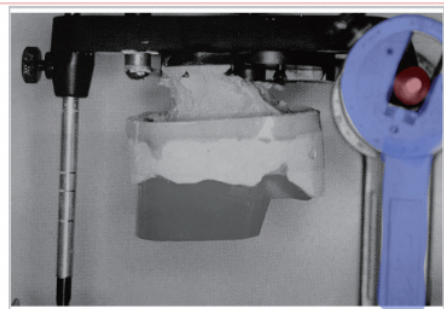
ケース3



顆頭球が上(赤)=コンダイラー型
下顎部のパーツ(青)が繋がっていることに注目



ケース4

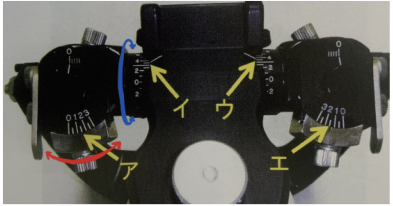
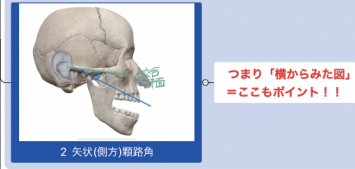


顆頭球が上(赤)、顆路部が下(青)
=コンダイラー型

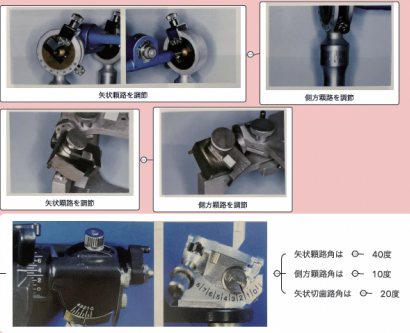
- 1 側方顆路角(Bennet角) ○ 前方チェックバイトで採得する ○ 「右」側方チェックバイトで 「左」側方顆路角を調節する ○ 「左」側方チェックバイトで 「右」側方顆路角を調節する } チェックバイトでは顆路は「直線」で再現される
- 2 矢状(側方)顆路角 ○ 前方チェックバイトで採得する ○ これは「右」「左」両方調節できる 人の平均値は33度
- 3 矢状切歯路角 ○ 天然歯 ○ アンテリアガイドスを用いて設定 ○ 無歯顎 ○ 10-20度 ○ 顆路角よりも小さく設定する
- 4 半調節性咬合器で調節できないもの ○ 作業前顆路の調節ができない ○ 顎関節距離の調節ができない } 全調節性咬合器では設定が可能
- 5 フィッシャー角とは? ○ 実は、前方チェックバイトでも、矢状(側方)顆路角が求められる ○ 下唇を前方に動かした場合、平歯歯の下唇等が「前下方」に動く。しかし、前方チェックバイトで求めた矢状(側方)顆路とは差がある。この差がフィッシャー角。

1 半調節性咬合器で調節可能な「角度」

咬合器の角度調節について



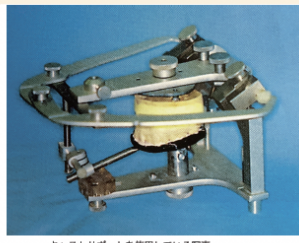
3 過去同族種



●咬合平面板 / キャストサポートセット
 上顎咬合床や模型装着に使用する咬合平面板と重量を支えるキャストサポートのセットです。(台座は兼用)



GC LL-85(アルコン)の取り扱い説明書より抜粋



キャストサポートを使用している写真
 フェイス簿のバイフォークを下から支えている

キャストサポートの目的

バイフォークの位置が下がらないため
 上顎模型を咬合器にマウントするとき必要

キャストサポート

フェイスボウは咬合器とセット



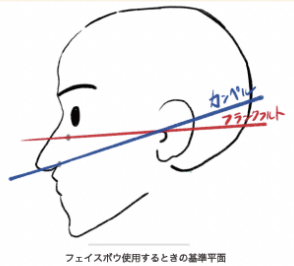
GC LL-85(アルコン)の取り扱い説明書より抜粋

●LL-85 フェイスボウ
 鼻、中耳、下顎の位置を正確に記録しフェイスボウに記録できます。



セットとはいえども、別売です

フェイスボウの基準点による違い



フェイスボウ使用するときの基準平面

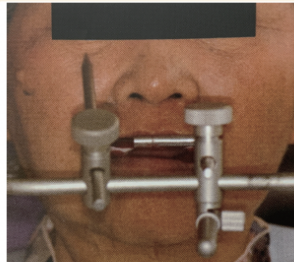
フラン克福ルト平面 眼窩下点(下線)=オルビタルポイント

耳珠上縁

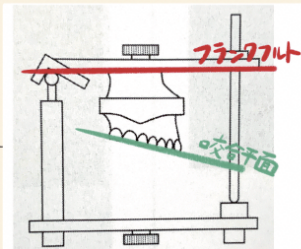
カンベル平面 鼻下点

耳珠上縁

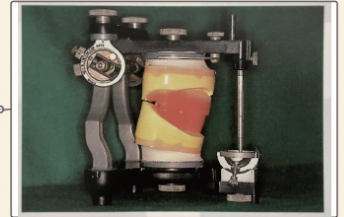
フェイスボウトランスファー時に「前方基準点」をどこにするか



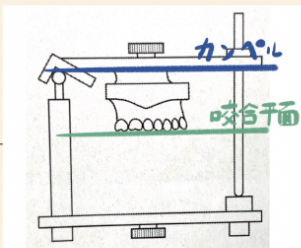
眼窩下点に前方基準点=フラン克福ルト平面



フラン克福ルトを基準に上顎をマウントしたとき
 咬合平面と平行にならない



鼻下点に前方基準点=カンベル平面



カンベル平面を基準に上顎をマウントしたとき
 咬合平面と平行になる

